

分科会予算調査報告書(平成28年度当初予算)

抽出主要事業評価

(文教厚生分科会 No.3)

(所属課, 事業コード)	(スポーツ推進課)	
事業名	8327 茨城国体施設整備事業	※P201
予算額	平成28年度	247,097千円
	平成29年度	164,714千円
	平成30年度	846,417千円
<p>【必要性】 <目的の妥当性, 行政が行う必要性> 茨城国体の開催地として本市がサッカー競技を行うことが決定されている。そのためサッカー場が6面必要になり, その内4面の改修工事(3会場)を行う。 この件に関して, ト伝公園の人工芝が10年経過することで張替えをする予定, また, 高松緑地は人工芝から天然芝への変更もありうる, さらに, 北海浜グラウンドも天然芝となるとの説明を受けた。 なお, 維持費に関しては, 人工芝が年間50万円, 天然芝が年間1,000万円という説明を受けた。</p> <p>【効率性】 <目的に対する費用等の関係> 整備する会場の中で, 最も費用を要するト伝の郷運動公園多目的球技場は, 国体の年には人工芝耐用年数の10年が経過する。また, 他の会場についても将来の利便性を考えた場合, 改修工事する必要がある。今回, 国体整備として, 国, 県, サッカーくじ助成金で整備できるというこの好機に整備することは, 市の財政負担の軽減を図る意味でもよい機会であると捉える。</p> <p>【有効性】 <得ようとする効果> 国体を開催することで全国への「スポーツ先進のかしま」のPR, また, この契機を生かした市民へのスポーツ取り組みの推進などを行うことにより, 本市へのスポーツ交流人口の増, スポーツによる健康増進, また市民がスポーツにより一体感の醸成が見込める。</p> <p>【公平性・継続性】 <事業の公平性及び財源の安定性> サッカー場については, 多目的な機能も有する形で整備をし, 高齢者にも人気のあるグラウンドゴルフなど様々なスポーツにも対応できる施設としていく。</p>		

また、ランニングコスト軽減対策として、人工芝の割合を高め、必要最小限の天然芝コートを整備し、コストの低減に努める。

【調査結果】

サッカーの街鹿嶋市としては、国体を機にグラウンドの整備は前向きに捉えるべきである。維持管理費を捻出する施策としては、鹿嶋市でのサッカー大会、サッカー合宿、その他スポーツ等に有効活用することで、サッカーの街鹿嶋市を今以上に発展させる必要がある。